



目 次	
●会長あいさつ	1
●副会長あいさつ	2
●本部役員紹介	3
●専門部の活動	4～5
●郡市教頭会ネットワーク	6
●新入会員の声	7
●随想	8



新しい時代の期待に応える教頭会へ

新潟県小中学校教頭会

会 長 西 方 和 明

(新潟市立曾根小学校)

令和元年 5 月の県小中学校教頭会理事会において選出され、代議員会で承認をいただき引き続き会長を務めさせていただくことになりました。会員の皆様の御支援・御協力をいただき、関係諸団体と連携を図りながら、児童生徒の豊かな成長に一層貢献していく教頭会を目指していきたくと考えております。

さて、来年度から全面実施される新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたカリキュラムマネジメントの充実や、指導方法の工夫や授業改善、教職員一人一人がもてる力を十分に発揮し、児童生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう学校における業務改善も求められています。中央教育審議会より「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策」が答申されました。同年 3 月には「学校における働き方改革に関する取組の徹底」が出されました。「長時間勤務を良しとする働き方を見直し児童生徒に対して効果的な教育活動を行うこと」「地域と学校の連携、協働や家庭との連携強化」等 4 点であり、「勤務時間・健康管理の推進」「適正な勤務時間の設定」「労働安全衛生管理の徹底」「教職員の意識改革及び学校評価」等が盛り込まれました。

私たち教頭は、引き続き「学校の働き方改革」について先頭になって取り組むことが求められています。その実現のため、学校の実態を的確に把握し、各学校に適した対策を実施していく必要があります。

新潟県小中学校教頭会は、新潟県小中学校教育の発展を目指し、研究活動を中核に据え、会員相互の交流を重視した活動を推進していきます。また、全国公立学校教頭会・関東甲信越地区公立学校教頭会と連携を深めながら、本会の活動内容の充実・発展を目指します。

今年度は次の 2 点を重点として取り組みます。

- 1 全国公立学校教頭会第 11 期の全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育（キーワード 自立・協働・創造）」の 3 年次に当たる。これを受けて本県では、サブテーマとして「主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり」（3 年次研究）を掲げ、その達成に向け、全県研究大会（関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会新潟大会）を開催する。
- 2 各郡市教頭会において会員同士の交流と連携を深め、充実した組織活動と効果的な会務運営を推進する。また、ここ数年増加傾向が見込まれる新採用教頭への必要な支援を行い、教頭職全体の資質能力の維持・向上を図る。

この変化の激しい社会において、私たち教頭は、新しい時代にふさわしい教育の創造に向けた学校運営を目指し、教職員一人一人が自信と誇りをもって児童生徒に向かい合い、質の高い教育を行えるよう、社会の動向や教育課題の的確な把握に努め、学校教育の在り方について模索し、真摯に取り組んでいきましょう。



「チーム新潟」として

副会長 小島 隆 宏
(上越市立春日小学校)

令和元年になりました。新しい元号になり、新潟県小中学校教頭会も記念すべき一年を迎えました。第60回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会新潟大会の開催というメモリアルイヤーとなります。この研究大会開催に向けて、平成29年度の準備委員会、30年度の推進委員会、そして今年度の実行委員会と県教頭会の組織を挙げて計画し、準備を整えてきました。準備委員会から関わった者の一人として、研究大会が成功裏に終了するよう心から祈っています。

また、今年度は、全国公立学校教頭会の第11期全国統一研究主題の3年目、最終年度となります。研究主題のキーワードは「自立・協働・創造」です。「継続性」、「協働性」、「教頭の関与性」を大切にしたい研究活動により、子どもたちにこれからの社会をたくましく生き抜くための資質・能力をどのように身に付けさせることができたのか、関プロの仲間との研究協議で明らかにしたいと思います。そして、3年間の研究の成果を全会員で共有し、日々の教育活動に生かしていきましょう。

今年は、「チーム新潟」です。ぜひとも全会員の皆様のご協力と、積極的な参加をよろしくお願いいたします。



教職員の心に火をつける 自ら学び続ける教職員集団をつくる

副会長 竹垣 雅彦
(長岡市立表町小学校)

子どもの心に火をつける教師には、どんな要件が必要でしょうか？子どもの成長を願い、愛情を注ぐことは言うまでもありません。それと同じくらい大切なのは、心身の体調を整えたり、生き生きと自己研鑽をしたりして、自分が感じたことを伝え、笑顔で教育活動に邁進することではないでしょうか。私たち教頭には、自ら学び続ける教職員集団を形成することが求められています。

各校では、新教育課程の準備に力を注いでいるこ

とと思います。そんな中、「働き方改革」は喫緊の課題となっています。新採用教員が多く、人材育成も学校の重要な使命となっています。一見すると、課題が多く、疲弊しそうですが、解決策もあります。それは、意識改革をし、プライオリティーは何か考え続けることです。

時間には限りがあります。優先順位を明らかにして、教頭が、自らタイムマネジメントし、限られた時間の中で、教育効果を上げていく姿勢を貫くことが重要です。「子どもの心に火をつける」を「教職員の心に火をつける」に置き換え、笑顔溢れる魅力ある学校づくりに鋭意邁進しましょう。

時代は、「令和」へ移り変わりました。新たな時代の幕開けという節目の時を、自分自身が成長できるチャンスと捉え、希望をもって大きな花を咲かせましょう。



人と人とのつながり

副会長 牧野 剛
(新潟市立東新潟中学校)

下越地区選出の新潟県小中学校教頭会の副会長として3年目を迎えました。今年度も西方会長を補佐し、695名の会員の皆様お一人お一人のお役に立てますように精進して参ります。ご指導並びにご協力のほどよろしくお願いいたします。

本会は、新潟県小中学校教育の発展を目指し、その中核に研究活動を据えています。今年度は、9年に1度巡ってくる関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会が「水の都新潟市」「柳の都新潟市」を会場に、1都9県から1,627名の副校長・教頭が集い、第60回新潟大会として開催されます。新潟大会の実行委員長といたしまして、心からのおもてなしの気持ちで任を遂行して参ります。会員の皆様からも、様々な場面で助けていただけますよう重ねてお願いいたします。

さて、元号が「平成」から「令和」に改まりました。年々時代のスピード感が増していることを肌で感じております。変わらないもの、変わってはいけないものは、人と人とのつながりです。新役員の皆様、新任の154名の教頭先生方、この出会いを大切にして、令和元年度よろしくお願いいたします。

令和元年度 本部役員紹介 (役職・氏名・現任校)

本部役員



幹事長
高橋 宏昌
(新潟・木戸小)



会計幹事
渡邊 一宏
(新潟・曾野木小)



地区庶務幹事
宮崎 容子
(上越・諏訪小)



地区庶務幹事
伊藤 勝広
(長岡・千手小)



地区庶務幹事
板垣 英樹
(新潟・鳥屋野小)



地区庶務幹事
石塚 繁
(阿賀野・神山小)

監査役員



会計監査
松岡 貴徳
(上越・南川小)



会計監査
山添 和人
(長岡・川崎小)



会計監査
逢坂 一郎
(新潟・小瀬小)

事務局



事務局
脇屋 雅実



事務局
横田 誠

専門部活動紹介



調査要請部の活動

調査要請部長 藤塚 静治
(新潟市立江南小学校)

今年度の活動の重点は、次の3点です。

- 全国の「教頭・副校長の基本調査」並びに本県独自の勤務実態調査を実施し、本県教頭の勤務実態を明らかにする。
- 各専門部の研究や成果を踏まえ、新潟県小学校長会及び中学校長会と連携を図りながら、県教育委員会はじめ関係団体に対する要望書を作成する。
- 勤務改善や要望事項の実現に向けた要請活動に努めることを通して、県教育の進展に寄与するとともに、会員の福利厚生・待遇改善を図る。

これらの重点を踏まえ、次の2つの事業を柱に活動を実施します。

- 全国公立学校教頭会個人調査及び勤務実態調査（本県独自）の実施と調査結果報告書の作成
- 「令和2年度新潟県義務教育の振興に関する要望書」の基礎資料作成のための調査実施と意見報告書の作成

昨年度末発行の報告書によれば、平日朝7時以前に出勤している会員の割合が49.6%（前年度比4.4%増）、平日20時30分以降に退勤する会員は19.5%（同比6.3%減）で、睡眠時間5時間未満の会員が21.2%（同比3.2%増）という調査結果が得られました。この実態から、退勤時刻はやや早まっているが出勤時刻も同様であり勤務時間に大きな変化はないこと、持ち帰り業務が増加しているのではないかと考えられます。一見すると働き方が変化していると捉えられるものの、その詳細から依然として厳しい勤務実態であることがうかがえます。今年度も関係機関に訴え、全公教とも連携して勤務条件の改善につなげていきたいと考えています。

10月には、県校長会から事前に示される「県義務教育の振興に関する要望書」の要望事項に合わせ、アンケート調査を実施します。私たち県教頭会の要望が次年度に反映されるよう、会員の皆様の忌憚のないご意見をよろしく願います。



会報を通して、 会員一人一人をつなぎます

広報部長 山口 靖博
(新潟市立白根北中学校)

県教頭会広報部は今年度も、会員の皆様の連帯や協調を図るため、各種資料や情報を整理して会報を作成します。会報は、会員の皆様のほか、関係団体にも配付させていただき、会員意識の高揚を図るとともに広く理解と協力を得るようにしていきます。

とりわけ今年度は、秋の関ブロ新潟大会を見据え提言者の皆様の声を2回にわたってご紹介します。大会が成功するためには、提言者の皆様はもちろん運営に携わる会員一人一人の協力も欠かせません。会報を通して皆様のご苦勞や協力体制が伝わればと思います。

今年度の会報の主な内容は以下の通りです。

- 189号 巻頭言、本部役員の紹介、各専門部の活動紹介、郡市教頭会の紹介、新入会員の声、随想
- 190号 巻頭言、関ブロ新潟大会に向けて、全公教滋賀大会参加報告、新入会員の声、郡市教頭会の紹介、随想
- 191号 巻頭言、関ブロ新潟大会を終えて、特集（喫緊の教育課題について 仮）、郡市教頭会の紹介、教育懇談会報告、随想

会報の発行に際しては、会員の皆様から原稿の執筆にご協力いただくこととなります。また、各郡市教頭会長の皆様からは、執筆者の選定や原稿の執筆依頼をお願いします。いずれも、ご多用のところ、大変恐縮ですが、23の教頭会の郡市、そして695名の会員一人一人をつなぐとともにそれぞれの実践や情報を共有することができるよう、広報部員で協力して編集していきます。どうぞよろしく願います。

なお、昨年度まで広報誌は、10ページで編集しておりましたが、今年度は、8ページで構成します。予めご了承ください。

専門部活動紹介



研究部の活動紹介
第11期のまとめと
第12期にむけての準備を
研究部長 **山田 淳**
(新潟市立女池小学校)

今年度の研究部は、以下の二つを大きな事業の柱として活動をしていきます。

1 第60回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会 新潟大会の開催

今年度は、全国公立学校教頭会11期研究活動の最終年になります。統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」を受けて、新潟県教頭会として設定したサブテーマ「主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり」の実現をめざし3年間の研究を継続してきました。その集大成として、研究テーマと実践発表との整合性を図りつつ、研究のまとめを行います。そして、11月の関東甲信越地区研究大会（関ブロ大会）でその成果を発信していきます。現在、新潟市の実行委員を中心に準備を進めています。11月7日（木）、8日（金）には全会員の皆様のご参加をお願いします。

2 第56回研究大会（第12回ブロック別研究大会） の準備

第12期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を受けて、サブテーマを「夢・志をもち、他者と協働しながら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定しました。このサブテーマのもと令和2年度のブロック別研究大会の準備をしていきます。平成31年1月にブロック別研究会の事務局による引継会も終了しており、現在は、上越市・妙高市教頭会、長岡市三島郡教頭会、佐渡市教頭会、新発田市・北蒲原郡・胎内市教頭会が主幹教頭会となり運営計画の立案を進めています。

「研究課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」を目指し、学校教育にかかわる様々な課題解決に寄与できる教頭の資質・能力を高める機会にしていきたいと考えています。



教育課題部の活動

教育課題部長 **多々良 儀 仁**
(長岡市立東中学校)

今年度は、第60回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会新潟大会（第55回新潟県小中学校教頭会研究大会）が新潟市で行われます。研究テーマ「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育～主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり～」も3年目を迎え、それに関連して5つの教育課題の取組状況について意識調査を実施します。

副校長・教頭は、第1から第5の全ての課題に関わっていることから、今年度から第6教育課題「副校長・教頭の職務内容に関する課題」それだけ取り出して課題としては設定しないこととなりました。

小学校では来年度から、中学校では再来年度から、いよいよ新学習指導要領が完全実施となります。道徳の教科化、新しい評価の観点への対応など各学校におかれましては既に万全の体制で実施されていることと思います。

また、働き方改革におきましても、先般関連法案が成立し、文科省は、学校における時間外勤務時間の上限を原則「月45時間、年間360時間」とする指針を発表しました。2020年度からの適応を目指すとのことでした。学校における働き方改革は、より短い勤務時間で高い成果を維持・向上することを目的とするという点において、我が国の様々な職場における働き方改革のリーディングケースになり得るとし、学校における働き方が社会全体の働き方をリードしていくことが期待されています。

多くの抱える学校現場において、教頭の考え方や姿勢が、大きな影響をあたえるものと考えます。皆様から回答いただいた調査結果を基に、教育課題部で集約・分析し、県小中学校教頭会のホームページや年度末発行の『教頭の勤務実態調査及び教育課題意識調査』（調査要請部と合同作成）に掲載予定です。教頭としての取組の在り方を考える一助にいただければと思います。

郡市教頭会ネットワーク



働き方を意識して

上越市教頭会
会長 高橋 哲
(上越市立谷浜小学校)

本教頭会は、小学校51校、中学校24校の計75校、75人で組織されています。今年度は27名の新任、転入会員を迎え入れ、会員の3分の1以上が入れ替わったフレッシュな顔ぶれとなりました。

現在、学校の働き方改革・業務改善が喫緊の課題となっています。会の事業や研修もそれを踏まえたものとしています。

1 総会のもち方の改善

総会は年1回全員が集まる場です。今年度から懇親会をなくし、自家用車でも集まることができるようにしました。会場も駐車スペースを広くとれる場所に変更しました。全員が顔を合わせ、親睦を深めるのは非常に意義あることですが、年度初めの多忙を極める時期に、会場までの往復の手段や時間の心配をせずに参加できることも重要と考えます。

2 全体研修会

「上越市学校現場における業務改善加速事業」プロジェクトチームと連携し、教頭を対象にしたマネジメント研修を実施します。文科省学校業務改善アドバイザーから講話をいただき、その後のワークショップでも指導助言を受ける予定です。自校で業務改善に生かせるヒントを得るために、具体的で実際の研修にしたいと考えています。

3 ブロック研修

8つのブロックに分かれ、地域性や各校の課題を基にした研修を行っています。昨年度はすべてのブロックが事務職員と合同で研修する機会を設け、財務、事務、業務改善についての意見交換を行いました。近隣の学校から改善のアイデアをもらったという報告が多数あり、身近な学校が集まって声を出しやすい研修となっています。

4 ブロック別研究大会の開催に向けて

次年度、上越ブロックは妙高市教頭会との合同で研究大会を開催します。妙高市とのネットワークをさらに築き、準備を進めていきます。



研修と情報共有

村上市岩船郡小中学校教頭会
佐藤 稔 司
(村上市立朝日さくら小学校)

村上市岩船郡小中学校教頭会は、今年度統廃合により小学校22校が18校に、中学校9校が8校と減少し、中等教育学校1校、特別支援学校1校を加えて合計28校28名の教頭で活動を行っています。

1 テーマに基づく研修

県大会や関ブロ大会に向け、テーマを決めて年間6～7回ほど集まって研修に取り組んでいます。今年度のテーマは、『「自らの力で生き方を選択していくことができる子どもの育成」(3年次)～教職員の意識を高め、キャリア教育を充実させるための教頭の役割～』です。現在のテーマは中学校区での研修が重要であり、各中学校区でも集まって研修を進めています。

2 講話による研修

研修テーマとは別に、毎年、村上市の教育長、郡市の校長会長を講師として招き、ご講話をいただきました。非常にタイムリーな話題に加え、叱咤激励もいただき有意義な場となりました。

3 事務職員との合同研修

毎年1回、夏季休業中に、事務職員との合同研修会を行います。内容は、毎回事務職員にも教頭職にも係りのある内容で、講師を招きご講演をいただいています。一昨年は勤務時間の適正化について、昨年はファイリングについてでした。

4 情報交換

毎月の定例会では必ず情報交換の時間をとっています。各自、現在困っていること・悩んでいることを相談して意見を聞いたり、各校で実際にあった危機的場面についてどのように対処したか、教育委員会からどのような指導があったかなどを、ざっくばらんに情報交換し合い共有したりしています。実はこの時間が教頭にとって最も勉強になる大事な時間です。



視る目を養う日々…

柏崎市立剣野小学校
飛田 修

教頭として剣野小学校に赴任して2か月半が経つ。赴任した当時から一日の始まりは、校舎の廊下・階段の清掃活動。清掃をしながら、各教室、雨具掛け等、いろいろなところに目を向けている自分がある。朝の清掃活動は、学校の安全の状態を視る目を育ててくれる。

子どもたちの登校後。各教室に顔を出すと、子どもたちには、いろいろな表情があることに気付く。毎朝の教室巡回は、子どもをしっかりと視る目を育ててくれる。

放課後の職員室。職員のがんばりや努力が随所に見られる。すべては子どもたちのためのもの。そこは、今後も絶対に見過ごしたくないと思う。まだまだ視る目を養わなくては…。

ということを日々感じながら、教頭職を自分なりに楽しんでいる毎日です。



「はたらく」考

十日町市立馬場小学校
山田 直美

平成31年4月1日、2日。校長先生に案内されてPTA役員、地域の方々への挨拶回り。

3日。時ならぬ大雪。早めに出勤し、職員の駐車スペース確保のための除雪。この作業でへろへろ。

8日は、新任式と始業式。そして9日は、入学式。学教法37条7には、「教頭は、校長を助け、校務を整理し、及び必要に応じ児童の教育をつかさどる」とあります。しかし、新米教頭の私の場合は、「校長に助けられ、整理したのは駐車スペースの雪だけ、児童の名前は分からないまま、学校行事のため関わる」といったグダグダの働き具合でした。

以前、「『働く』とは傍の人を楽にすること『傍楽（はたらく）』だよ」と、教えていただきました。4月から自分がどの程度「傍楽」をしたかは不明です。今後は、「傍」の範囲を広げ、質を高めていければと考えています。よろしく願いいたします。



〇〇〇しか できないことを

新潟市立岡方第一小学校
藤田 滋

何をするにも、右往左往し時間を費やしています。疲労は確かにありますが、楽しさでいっぱいです。地域の方とのふれあいは発見だらけです。職員からもたくさん呼んでもらえます。孤独になることはなく、幸せなことだと思います。うれしいものです。

私は、「教頭として一人一人の職員に寄り添うこと」「支持的風土のある職場の風土を一層高めること」「地域・保護者・外部の力を生かし、教育活動を活性化させること」を実現したいと思います。しかし今、「教頭は校長を助け・・・」という姿にはほど遠く、校長先生、教職員の支え、地域のありがたさに感謝する日々です。まずは、教頭としての職務を丁寧に、精一杯務めていきます。そして、この学校でしかできないこと、自分にしかできないことに粘り強く取り組んでいきます。



やりがいをもたせる 言葉掛け

五泉市立村松小学校
山口 伸也

「教頭さん、去年買ったたくさんのプランターがあるんだけど。」4月の教務室で雑談をしているときに校長先生がおっしゃった。「わたし得意です。育てるのが大好きです。」すると「世の中うまく行くようになってきているんだなあ。花で子どもたちを迎える玄関にしたかったんだよ。教頭さんに来てもらって良かった。」赴任したばかりで校長先生からいただいた言葉は、ものすごくうれしかった。

たわいのない会話から人柄や特性を知り、その人に仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えることができたならば、多くの職員がやりがいをもって仕事に励むことができるのだろう。自分だけでやるのではなく、一緒に働く職員にやりがいをもって働いていただけるような言葉掛けをしていきたい。

11月13日に県・市小教研の研究大会を開きます。プランターいっぱいのお花でお迎えます。

随 想



みんなちがって、 みんないい。

南魚沼市立後山小学校

宮 嶋 利 光

童話詩人金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」に書かれている有名なフレーズ「みんなちがって、みんないい。」そこには、鈴、小鳥、私という一つ一つ違うかけがえのない存在が、どれも皆、大切であるという思いが込められている。後山小学校では、この「みんなちがって、みんないい。」を重点目標の一つに掲げている。

後山小学校は、南魚沼市の山間部にある全校児童12名の小規模校。隣接するぶな林の緑は美しく、地域の人情は温かく、時計台のそびえる木造校舎は、地域に溶け込みノスタルジックな雰囲気演出している。そんな恵まれた環境の中、後山の子どもたちは、実に生き生きと元気に学校生活を過ごしている。

12名とはいえ、後山の子どもたちは、それぞれ違う「色」や「輝き」をもっている。その色や輝きをより鮮やかに、そして、彩り豊かに調和させることが、教育の根幹であり、後山小学校が目指す姿でもある。

「みんなちがって、みんないい。」これからも、子どもたち、そして教職員も、きらきら輝く学校づくりを目指して尽力していく。



県内唯一の県立中学校の 閉校に向けて

新潟県立阿賀黎明中学校

庭 田 雅 範

本校は平成14年4月、当時の東蒲原郡内四町村の大きな期待が寄せられて開校して以来18年、多くの方々の苦勞により支えられてきた。併設型中高一貫教育校として特色ある教育が求められ、学力向上や進路実現に成果が求められた。それに応えるため、話せる英語力の育成を図る「英会話」、情報活用能力の育成を狙った「マルチメディア」を教科として新設した。さらに学習内容の定着を狙った少人数授業と学級担任2人制、中高の生徒が共に集う学校行事・部活動の実施、加えて中学3年間で10回を超える宿泊研修を取り入れた。

そんな唯一の県立中学校である県立阿賀黎明中学校は、令和2年3月をもって歴史の幕を下ろす。その幕引きに教頭として関われることは幸せだ。

閉校記念事業として、記念誌発行、記念碑設置、記念式典・感謝の会開催、そしてこれらの事の運営のための募金活動を行う。中学校関係者のみでは力不足のところ、高校職員、同窓会、中高PTA、地域の方々の協力をいただいている。本当にありがたいことである。このような多くの方々を町立中学校との連携型中高一貫教育へと引き継いでいく。

令和元年度 各種大会日程

- 1 全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会 8月1日(木)～8月2日(金)
- 2 県同和教育研究集会上越大会 8月8日(木)
- 3 第60回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会新潟大会
第55回県小中学校教頭会研究大会 11月7日(木)～8日(金)
- 4 第71回全国人権・同和教育研究大会三重大会 11月30日(土)～12月1日(日)

*各研究大会への参加ご協力ありがとうございます。よろしく申し上げます。

新潟県小中学校教頭会
[事務局]
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225
https://www.niigata-kyotokai.jp/ FAX (025) 244-5060
http://www.kyotokai.jp/